

令和8年度 第1回熊本県渋滞解消推進本部会議 議事録

日時：令和8年（2026年）5月22日（金）9：20～10：20

場所：県庁本館5階 知事応接室

1 開会

【進行：土木部】

ただいまから令和8年度第1回熊本県渋滞解消推進本部会議を開催いたします。本日の司会を務めます土木部都市計画課の松岡です。どうぞよろしくお願いたします。お手元の次第に沿って進めさせていただきます。

それでは、開会にあたり、本部長の木村知事からご挨拶を申し上げます。

2 挨拶

【木村知事】

皆さんおはようございます。令和6年6月に、私が知事に就任して直後に立ち上げさせていただきましたこの渋滞解消推進本部。やはり今、県民の皆さんが、一番、この熊本都市圏の渋滞問題に悩んで、そして、また苦しんでおられます。いろんなところで県民の皆さんと直接お話をするたびに、渋滞問題があります。サウナで逃げられない状況の中でも、いつも渋滞問題を何とかして欲しいという県民の声を聞いております。ただそれぐらいですね、県民にとっては長年の課題であり、関心事でもあるとともに、やはりこの熊本の未来の発展、そしてまた、お子さん、お孫さんたちに、やっぱり安心して安全な地域の生活環境を維持する、こうした面からも、やはりこの渋滞解消というのは非常に大きなテーマだと思っております。

これまで関係部局が連携してハードソフト両方の面からいろんな対策を既に講じておりますので、今回、道路ネットワーク整備による効果、また信号制御の効果が非常に目に見えて出てきております。これらをさらに、今日はその進捗を確認するとともに、これからさらに、よくできているところはより伸ばし、また足りてないところはさらに引き上げる。そうした中で、県民の皆さんから目に見えて、渋滞が減ったと実感できる。一部の地域では、すでにそういう実感の声もいただいていますけれども、やはり多くの県民にですね、到達する、認識していただくには、まだまだ未完成・未到達だと思っております。引き続き、効果的な対策を積み重ねていきましょう。

今日は、各部局から現状報告いただいたのちに、これからの道筋、渋滞解消によって、県民の生活の質を高めて、さらに熊本の活力を最大限に引き出していくための挑戦がこの渋滞解消に向けたプロジェクトです。

今日の会議で、さらに次なる一手、それぞれが検討していただいて、発表していただいて、皆で共通認識を持ち、県庁一丸となって、渋滞解消に向けて進めていきましょう。よろしくお願いたします。

3 議題

【進行：土木部】

ありがとうございました。

それでは、議題に入ります。まずは、「これまでの振り返り」について、事務局より報告いたします。

○ これまでの振り返り

【事務局】

事務局です。資料の方をよろしくお願ひいたします。それでは、本日の会議の報告内容事項は資料1ページの記載の3点となっております。まず事務局から、これまでの振り返りについてご説明いたします。

3ページをお願ひいたします。

本日は、今年度第1回目の本部会議となりますので、最初に、当推進本部の概要をご説明します。当推進本部は、令和6年6月に設置され、知事を本部長とし、両副知事、庁内関係部長、県警本部長、県央及び県北広域本部長で構成しています。本部の下に、関係部署等の所属長で構成する幹事会を設置し、対策の検討や対応などを行っています。

これまでの開催状況につきましては、中段の組織体制図の下に、四角囲みで記載のとおり、本部会議を4回開催しました。また、渋滞解消に向けては、都市圏市町や、民間企業などの関係機関との連携が重要であることから、熊本市をはじめとする周辺の市町とのトップ会談を実施しております。

4ページお願ひします。

こちらは、これまでに開催した本部会議の内容になります。昨年12月に開催した、前回の会議では、交差点改良やオフピーク通勤の具体的な効果を示したほか、効果の見える化についても検討し、正確でわかりやすい情報発信を行っていくことを確認しました。

5ページお願ひします。

こちらは、これまでに開催した周辺市町とのトップ会談の会議内容になります。昨年は、11月に熊本市とのトップ会談を開催し、第二空港線の混雑緩和への対策や、JR豊肥本線の活用強化に向けた2次交通や交通結節の推進などで緊密に連携して、渋滞解消に取り組むことを確認したところです。

6ページをお願ひします。

こちらの表は、これまでに取りまとめた道路施策、公共交通施策、その他施策により、都市圏の渋滞解消に向けた具体的な対策と目標を示した取組方針です。短期は3年以内、中期は10年以内を目標とする内容を赤字で示しております。この取組方針のもと、都市圏周辺市町とも連携し、取組みを推進しております。

7ページお願ひします。

こちらの図面、先ほどご説明した取組方針の位置図です。上部の薄いオレンジ色のエリアで示す、セミコン周辺エリアと、都市圏東部エリアにおいて、30箇所の交差点改良や、信号制御の最適化、公共交通の利便性向上や利用促進などに取り組んでいます。

これまでの振り返りにつきまして、事務局からの説明は以上となります。

○ 主な取組成果

【進行：土木部】

ありがとうございました。次に「主な取組効果」について、事務局及び県警本部、土木部、企画振興部よりそれぞれ報告をお願いします。

【事務局】

事務局です。9 ページをお願いいたします。

今回ご報告する主な取組みにつきましては、表の四角囲みの赤文字で示しております。次のページから各部より順にご報告いたします。

【県警本部】

県警察でございます。10 ページをお願いいたします。

県警察では、渋滞対策として、信号制御の調整などの信号制御の最適化を推進しております。

令和7年度は、国道3号、白山通り、国道325号等における信号制御の最適化を実施いたしました。検証の効果の検証といたしまして、スライド記載の3つの路線について、朝方と夕方、上り・下りの実走行を行い、信号を調整する前後の所要時間を比較しております。検証の結果について説明いたします。

今回、最適化した3つの路線について、進行方向の別、朝方、夕方の別がありますので、合計12種類の結果を表に示しております。結果全体を見ますと、11種類において、所要時間が短縮しております。

対象路線と交差する道路側に配慮する調整も必要でございますので、すべての種類で短縮という結果は得られておりませんが、最大では約30%短縮している箇所もございます。

検証結果は以上でございます。信号制御だけでは、交通量そのものは変わらないことから、改善できる範囲について限界もございますが、道路ネットワーク整備などの道路施策との相乗効果が、最大限に発揮できるよう、引き続き最適な運用となるように努めて参ります。

【土木部】

土木部です。11 ページをお願いします。

次に道路ネットワーク整備の効果として、昨年12月に供用開始した大津植木線辻久保工区の開通効果についてご報告いたします。

左下の位置図に示す黒色の線が大津植木線の現道で、赤色の線が新たな道路を表しております。黒丸が国道387号と交差する「辻久保交差点」、赤丸が新たな交差点となります。青丸で示していますポイントで、両道路の交通量の合計は7時から19時の12時間で開通前より約2千台増の約1万台となっております。そのうち55%の約6千台

が新たな道路へ転換しております、通学時間帯を含め、現道の安全性が向上していません。

右側中ほどの写真が開通前後の朝7時台の通行状況ですが、通過車両の減少が確認できます。また、整備前の辻久保交差点と整備後の両交差点の渋滞長についても、大津方面へ向かう車線で910メートルから20メートルに減少し、A地点からB地点までの移動時間が最大4分短縮するなど、交通渋滞を緩和する効果が現れております。

12ページをお願いいたします。

続きまして、県道熊本高森線の4車線化の取組効果をご説明します。本路線は、平成28年熊本地震からの創造的復興のシンボルとして、県で整備を進め、位置図に示す赤線部分の益城町総領から寺迫までの約2.2キロメートルの区間が今年3月に供用を開始し、計画区間約3.8キロメートルで全線開通しております。

開通の約1ヶ月後に行った交通量調査では、総領交差点や木山交差点において、整備前と比べ、朝・夕の通勤時間帯の交通混雑がほぼ解消しているのを確認しております。

【企画振興部】

企画振興部です。13ページをお願いいたします。

県内公共交通機関の運転士不足対策の効果について、まずご説明をいたします。県内路線バス事業者5社が取り組みます人材確保に要する経費につきまして支援を行いまして、令和6年度から令和7年度の合計で15名の免許取得を支援いたしております。運転士の在籍数につきましては、将来的な減少が予想されているものの、各社の待遇改善等の取組みによりまして、2024年度時点におけます在籍数は、予測を超えた実績となっております。

続いてシェアサイクルの利用促進についてでございます。シェアサイクルの利用促進として、チャリチャリ株式会社様と包括連携協定を令和5年3月に締結し、マイカーからの転換を促進しております。昨年9月には熊本市と菊陽町の取組みによりまして、熊本エリアと菊陽エリアの接続が実現いたしまして、熊本都市圏の利用エリアが拡大し、令和8年4月のJR豊肥本線の駅付近のポート利用数が、1日平均600回を超え、シェアサイクルが2次交通の役割を担っているというふうなことが確認できる状態でございます。

右側の画像ですが、JR豊肥本線沿線におけます、利用経路の一例を参考までにお示しをしております。

次に14ページをお願いいたします。

菊地南部地域におけます通勤バスの運行支援の効果についてご説明をいたします。詳細につきましては後程県北広域本部からご説明がありますが、既存のバス、通勤バスに加えまして、令和7年10月から新たに大津町内からセミコンテクノパーク方面の通勤バスの実証運行を開始しております。これらの取組みによりまして、1日当たり約800台分の通勤自動車の削減に寄与していると推測されます。

続いて、JR豊肥本線の輸送力強化についてでございます。令和7年7月に、JR豊肥本線輸送力強化促進協議会を設立いたしまして、これまでに2回の会議を開催しております。第2回の協議会では、熊本市、大津町、菊陽町と豊肥本線沿線地域の10年後

20年後の将来像について共有をいたしておりまして、今後の輸送力強化の必要性について意見交換を実施しております。

15 ページをお願いいたします。

オフピーク通勤の効果についてでございます。官民が一体になりました交通渋滞解消に向けた県民運動化に向けて、昨年5月に熊本県渋滞対策パートナー登録制度を創設しております。具体的には時差出勤等による交通量の分散、テレワークや公共交通機関の利用促進等による交通量の抑制、鉄道やバスなどによる公共交通サービスの提供といった取組みを推進し、交通渋滞の解消を目指すものでございます。令和7年度は275社に登録をいただいております。

16 ページをお願いいたします。

官民連携でのオフピーク通勤の効果についてでございます。熊本都市圏におけます交通は、午前7時半から8時半までの朝のピーク時間帯に集中しておりまして、この時間帯の交通量を分散させることが非常に重要となります。そのため、昨年9月に、渋滞対策パートナー登録制度登録事業者の皆様方にもご協力をいただきまして、官民連携での時差出勤や、在宅勤務への集中的な取組みを推進いたしました。

その結果、目標としておりました1万人を超える、1日当たり10,687人の実施者数となりました。ご協力をいただきました皆様におかれましては、この場を借りて、改めて感謝申し上げたいというふうに思います。このオフピーク通勤の効果検証の結果、例えばセミコンテクノパーク周辺においては、約4,000人の方にオフピーク通勤に取り組んでいただき、約26%の交通量の減少が確認されております。このように、官民連携によるオフピーク通勤が渋滞緩和に一定の効果があることが確認できましたので、引き続き、取組みを推進していきたいと考えております。以上です。

○ 各施策の捗報と今後の取組み

【進行：土木部】

ありがとうございました。次に「各施策の進捗と今年度の取組み」について、事務局及び各部から報告をお願いいたします。

【事務局】

事務局です。資料の18ページをお願いします。

まずは、現在取り組んでいる施策の全体状況についてご報告いたします。図の赤色やピンクで示している部分が、現在、国や県、市、町で実施中の取組みです。赤線は道路整備、実線の丸が交差点改良、四角はバスベイ、点線の丸やピンクの線は公共交通施策を示しております。完了した取組みについては、黒色の線や丸、四角で表示しております。

19ページをお願いします。

こちらは、先ほどの全体状況図のうち、セミコンテクノパーク周辺エリアにおける取組箇所を示した位置図になります。国、県、市町が連携し、周辺道路の整備や、通勤バスの運行などを集中的に取り組んでいます。

20 ページをお願いします。

こちらが、渋滞解消に向けた取組みに関連する交通計画の策定についてです。資料左に示す「熊本都市圏都市交通マスタープラン」については、熊本都市圏における将来の望ましい交通体系の実現に向けて策定される概ね 20 年後の中長期的な将来ビジョンです。公共交通 2 倍や渋滞半減といった目標を定め、今年 3 月に策定しております。

資料の右になりますが、「熊本県地域公共交通計画」については、計画期間を令和 12 年度とし、前計画に不足していた各モードに求められるサービス水準の設定などの観点を見直し、明瞭化するほか、地域の移動手段の確保、「交通連合」の実現に係る取組み等を反映しております。公共交通 2 倍、交通空白地ゼロなどの目標を定め、今年 3 月に策定しております。

これらの交通関連計画においても、本推進本部の取組方針との整合を図り、今後も取組みを進めて参ります。

全体状況につきまして、事務局からの説明は以上となります。

【土木部長】

土木部です。21 ページをお願いいたします。

ここからは、道路施策についてご報告いたします。まずは道路施策の短期対策として進めています交差点改良 19 箇所の進捗状況についてご説明します。昨年度、3 箇所の交差点の対策が完了しており、今年度は 4 箇所、令和 9 年度に残る 12 箇所の対策を完了させる予定としております。引き続き、来年度の対策完了に向け計画的に進めて参ります。

次に、今年度着工予定箇所の代表事例として、19 番の国道 443 号の空港入口交差点の対策内容をご紹介します。

22 ページをお願いいたします。

この交差点では、これまでにない新たな取組みとして、右折レーンの増設に加え、左折レーンをフリー化する規制方法の変更や信号制御の調整などを複合的に組み合わせることで、全体的に効果を発現させる計画としております。

本交差点では、右下、対策イメージ上段のように、①の方向から左折と、②の方向からの右折交通が多く、朝夕の通勤時間帯を中心に交通渋滞が発生しております。このため、対策イメージ下段のように、①の方向からの左折レーンを信号制御に捉われないフリーレーン化を計画しております。

また、②の方向からの右折レーンを、1 車線から 2 車線に増設するとともに、レーンの長さを 30 メートルから 75 メートルに延伸する計画としており、交差点の改良に合わせて信号制御の調整も計画しております。

これらの対策により、交差点全体で効果が発現し、最大滞留長が①の方向で約 100 メートル、②の方向で約 400 メートル、③の方向で約 200 メートル減少するなどの効果を予測しております。

【県警本部長】

県警察でございます。23 ページをお願いします。

今後の予定といたしまして、令和8年度におきましても信号制御の最適化を行う予定としております。対象路線は、国道57号東バイパス近見交差点から北バイパス入口交差点、産業道路を熊本駅白川口入口交差点から保田窪北交差点、国体道路東西線、保田窪北交差点から曲手交差点であります。

また、交通渋滞対策支援システムについて説明をいたします。こちらは、民間のプロープ情報で、渋滞状況等を把握するシステムとなっております。令和8年1月の導入以降、5月までに延べ9箇所以上の交差点において分析調整を実施しております。

今後もさらなる有効活用に努めて参ります。県警察におきましては、今後も関係機関と連携しながら、より最適な信号制御を推進することで渋滞解消に向けて取り組んで参りたいと考えております。

【土木部】

土木です。24ページお願いします。

こちらは第二空港線における取組状況についてでございます。本路線では、空港アクセス改善に向け、県・熊本市・益城町・県警察本部などの関係者が連携し、交差点改良や信号制御の最適化などの取組みを線として、一体的に推進しております。現在、拡大図2に示します①の安永交差点は、来年度工事完了予定であり、②の平田交差点につきましては、今年度着工予定です。

また、昨年11月の熊本市とのトップ会談で、今後連携して取り組むこととしました拡大図1の益城熊本空港インターチェンジ付近の対策につきましても、一部、概略設計に着手しております。引き続き、迅速に取組みを進めて参ります。

25ページをお願いいたします。

こちらバスベいの整備についてでございます。整備予定箇所10箇所のうち、昨年度国道387号の再春医療センター前の2箇所が完成しており、今年度は4箇所、令和9年度に残る4箇所の整備を完了させる予定としております。

【県央広域本部長】

県央広域本部です。26ページをお願いいたします。

県民運動総合公園の新規駐車場の整備についてでございます。大規模イベント時に、既存駐車場では、駐車場台数が不足し、周辺道路において渋滞が発生していることから、パークドームの南側に新たに約1千台規模の駐車場を整備するものでございます。

令和8年2月に地元説明会を開催し、用地買収に着手しております。今後は、引き続き用地買収を進めるとともに、駐車場の詳細設計を行いまして、本年度中に一部暫定供用を目指し、造成工事を進める予定としております。以上です。

【土木部】

土木部です。27ページお願いします。

まずは、道路ネットワーク整備のうち短期対策として取り組む県道新山原水線についてご説明します。本路線はセミコンテクノパーク周辺と国道57号をつなぐ新たな縦軸としてバイパス整備を進めています。右側③、④の写真のとおり熊本菊陽線とJR豊肥

本線を跨ぐ、橋梁の上部工の架設も完了し、道路の全体像が見える状況となっております。

引き続き、今年度内の開通に向け、舗装工事や安全施設工事などを推進して参ります。
28 ページをお願いいたします。

次に、中長期対策のうち、大津植木線多車線化及び合志インターチェンジアクセス道路についてご説明します。位置図に示しております J A S M 前を通る「大津植木線の多車線化」と、大津植木線と中九州横断道路をつなぐ「合志インターチェンジアクセス道路」について整備を推進しております。

資料下の写真のとおり、現在、J A S M 前や立体交差部などの工事を進めています。

引き続き、令和 10 年度の完成を目標に、用地買収や道路改良工事を推進して参ります。

29 ページお願いします。

こちら国により整備が進められております中九州横断道路についてご説明します。中九州横断道路は、セミコンテクノパーク周辺や熊本都市圏の渋滞対策にも寄与します道路ネットワークの中心的な路線でありまして、現在、国において異例のスピードで整備が進められています。

令和 8 年度当初予算では、本路線の大津から下硯川間に 145 億 9 千万円の予算が配分されております。また大津道路では、令和 8 年度から用地買収に着手される予定であり、着実に整備が進められております。

さらに、4 月 10 日には、国道 325 号から熊本西環状道路までの区間であります「大津西インターチェンジから下硯川インターチェンジ」において、有料道路事業導入が決定されております。有料道路は、開通後の通行料金収入を建設費用の借り入れ返済に充てられるため、早期整備に繋がるものと期待しております。

引き続き国への要望を行うとともに、大津熊本道路の事業用地の先行買収等を進め、早期整備につなげて参ります。

30 ページをお願いいたします。

熊本都市圏 3 連絡道路の取組状況についてご説明します。熊本市中心部から高速道路インターチェンジまでを 10 分、熊本空港までを約 20 分で結ぶ「10 分・20 分構想」を実現するため、ルートや道路構造、有料道路制度の活用を含めた事業手法など、国の支援を得ながら、熊本市と連携し、調査・検討を行っております。

また、計画の具体化に向け、住民参加型の道路計画検討を進めており、去る 3 月 31 日に第 3 回有識者委員会を開催し、道路整備が果たすべき役割であります政策目標の妥当性を確認しております。

今後は政策目標や技術的検討を踏まえ、令和 8 年度中に複数のルート帯案を提示する予定としており、その後、改めて意見聴取を実施し、最適なルート帯を決定することとしております。道路施策についての報告は以上となります。

【企画振興部】

企画振興部です。31 ページをお願いいたします。

公共交通の利便性向上及び利用促進に関する取組みについてでございます。県では令和6年度から、県内路線バス事業者5社に対して大型自動車第二種免許の取得に要する経費への支援を行っております他、広報活動に要する経費への支援なども行っております。今年度からは広報支援の対象を、県内鉄道事業者3社にも拡大しております。新たにバス事業者を対象に、業務改善に要する経費も支援するなど、支援の拡大に努めているところでございます。

この他、各事業者が様々な取組みを進めておりまして、熊本電気鉄道におかれましては、平日限定運転士や、定年の延長など、柔軟な働き方ができる環境を整備することで、運転手の確保にも繋がり、5月からはダイヤの増便も実現されております。

また、バス事業者5社による共同経営推進室におきましては、バス利用促進に資するパンフレットを作成し、熊本県渋滞対策パートナー登録事業者に配布することで、通勤時におけますバス利用を推進しております。

今後も各事業者と連携しながら、運転士不足対策にしっかりと取り組んで参ります。

【県北広域本部長】

県北広域本部です。32ページをお願いします。

菊地南部地域で、市町や企業、交通事業者と連携して実施しております、3つの通勤バスの取組みについてご報告いたします。

資料の左側は、原水駅からセミコンテクノパーク間のセミコン通勤バスでございます。平成27年度から続いている長期の取組みです。令和7年度は年間約33万人、1日あたり1,413人の利用となっております。

資料中央は、肥後大津駅から本田技研工業間の通勤バス実証でございます。令和6年度からの取組みで、昨年度は約37,000人、1日当たり約153人の利用となっております。取組みの認知度向上に伴い、利用実績は増加傾向にあります。

右側は、大津町内からセミコンテクノパーク方面への通勤バスです。令和7年10月から実施している一番新しい取組みで、半年間の利用者数は3,245人、1日当たり約27人の利用となっております。

先ほど取組み効果でご説明ありましたが、これら3つの取組みにおきまして、1日当たり約800台分の通勤自動車削減に寄与しております。今後とも引き続き、通勤バスの長期継続運行に向けて支援を実施して参ります。以上でございます。

【企画振興部】

企画振興部です。33ページをお願いいたします。

官民連携で実施する車から公共交通への転換を図る取組みへの支援についてでございます。県内の公共交通においては、減便等による利便性の低下が利用者の低下を招き、交通事業者の収益が悪化することで、サービスの低下に繋がるという、負のスパイラルが課題となっております。公共交通のサービス向上に向けた事業者の取組みに対して、行政が支援を行うことで、負のスパイラルから脱却し正のスパイラルへ転換していくというふうなことが必要であると考えております。

県では、熊本市と連携しながら、公共交通の輸送力強化に向けた取組みに対して支援を行いまして、公共交通の利用を促進することで、車から公共交通への転換を図って参ります。

34 ページをお願いいたします。

公共交通の輸送力強化等基盤整備についてご説明をいたします。J R 豊肥本線輸送力強化については次回の第 3 回協議会におきまして、第 2 回協議会で協議いたしました豊肥本線の将来像を J R 九州へ提案することとしております。

空港アクセス鉄道整備に向けましては、現在、都市計画案、環境アセス準備書の公告縦覧を行うとともに、環境アセスにつきましては住民説明会も実施をしております。今後、事業主体となります第三セクター等法人を設立いたしまして、鉄道事業の許可申請を行って参ります。引き続き、令和 9 年度の事業着手を目指し、着実に取組みを進めて参ります。

また、阿蘇くまもと空港ライナーにつきましては、年々利用者が増加をしている中で、積み残しが発生しないよう、運行委託事業者と連携し、応援便の運行など、安定した運行に向けた、日々取組みを進めております。今年 7 月からは、有料化を予定しております。安定した運行及び輸送力の強化につなげて参ります。

また、これまでは対象を空港利用者に限定しておりましたが、7 月からは、誰でも利用できる公共交通機関として位置づけることで、渋滞対策にも貢献できるものと考えております。

35 ページをお願いいたします。

行政におけます推進部署の新設についてでございます。交通渋滞の解消及び持続可能で利便性の高い公共交通体系の構築に向けまして、行政における推進体制を強化いたしました。

4 月から熊本市では公共交通戦略部、県では公共交通強化室を新設いたしまして、公共交通の供給力強化に取り組むとともに、新たなマネジメント組織の設立に向けまして、熊本市、交通事業者などと連携しながら、熊本交通機構設立検討協議会を立ち上げて参りたいと考えております。

36 ページをお願いいたします。

熊本県渋滞対策パートナー登録制度の取組みについてです。優良な取組みを行います登録事業者の表彰制度の創設を予定しております。

また、今年度も官民連携のオフピーク通勤を、昨年度と同様、9 月に集中的な取組みとして実施したいと考えております。4 月 22 日から 9 月 30 日までを集中取組み期間として、新規の渋滞対策パートナー企業を募集しているところでありまして、今後とも官民連携での渋滞対策の取組みを推進していきます。企画振興部からは以上です。

【商工労働部長】

商工労働部です。37 ページをお願いいたします。

渋滞解消に向けました官民連携の取組みとして、セミコンテクノパーク周辺企業における渋滞対策の取組みを報告いたします。令和 6 年 8 月から関係行政機関・企業などによりますセミコン交通対策協議会というのがありましたが、その中に企画会議を設置し

て、時差出勤や在宅勤務推進などのソフト対策、また自社バスの運行や公共交通利用促進などのセミコンテクノパーク周辺の渋滞解消に向けた様々な取組みに関して、情報共有と様々な協議を行っています。

令和7年度も継続して官民連携で意見交換を行いながら左下の図になりますが、途中でありました、JASM敷地内にチャリチャリの駐輪ポートを設置しまして、周辺エリアの移動手段を確保したりですとか、右下の絵にありますが、赤く塗ってあるところが通り抜け禁止で、赤い線が通行禁止道路で、ブルーの線が通行指定道路、そして、様々な企業による自主的な通行規制によりまして、周辺交通量の削減にも取り組まれております。

本年度以降取組みとしましては、今後もセミコンテクノパークを中心に、新たな開発・工場建設が見込まれますので、引き続き、工事車両の動向、道路施策及び新たな交通規制のしっかりとした情報共有をとりながら、公共交通利用促進や交通安全対策の実施など、渋滞解消に向けた取組みを推進して参ります。同部からは以上です。

【事務局】

事務局です 38 ページをお願いします。

取組みの情報発信についてです。当推進本部では、取組状況や効果についての情報発信を強化していきたいと考えております。これまでに、左側のイベント時などを活用し、渋滞解消に向けた取組みのPRや、右側では昨年度実施した1万人のピーク通勤の成果を「くまもとデータ連携基盤地図ダッシュボードサービス」で発信しております。

今年度は、各交差点における毎月の交通量比較や道路整備等の情報などを追加し、効果の見える化の強化を図って参ります。

最後に、熊本市の主な取組みについて、参考資料として掲載しております。39 ページをお願いします。

こちらは、道路施策である熊本西環状道路の開通効果についてです。昨年10月19日に池上工区が開通し、開通から1ヶ月後の効果として、交通渋滞の緩和や交通の転換、所要時間の短縮などの効果が確認されております。

左の図で示す交通の転換状況では、熊本西環状道路における12時間の交通量が増加し、それに並行する国道3号などの路線では最大4,900台の交通量の減少が確認されており、下のグラフや写真で示されるように、渋滞長の減少など、交通渋滞の緩和が確認されております。また、右の図に示す北区役所から熊本駅の所要時間が23分短縮されるなど所要時間の短縮も確認されております。

40 ページをお願いします。

続いて、公共交通施策です。熊本市では、JR新水前寺駅の混雑緩和やJR豊肥本線から中心市街地へのアクセス強化を目的にJR南熊本駅と桜町を結ぶ快速バスの実証実験を実施されました。期間中は、右の表で示すとおり、延べ1,646人、1日平均で約70名が利用されました。

また、アンケート結果では、「通勤が快適」「乗り換えがスムーズ」など、好意的な意見が寄せられております。

今後の展開としては、南熊本駅周辺の現状を分析し、将来のあり方を検討される予定で、南熊本駅の利便性やアクセス性などの向上が図られる見込みです。

都市圏の渋滞解消に向け、熊本市とも引き続き連携しながら取組みを推進して参ります。事務局からは以上となります。

【進行：土木部】

ありがとうございました。

本日の議題については以上となります。

4 意見交換

【進行：土木部】

次に、4. 意見交換に移らせていただきます。

各部からその他、ご質問やご意見等はございませんでしょうか？

【木村知事】

私からすいません、事務的な話をひとつだけ。

年度当初ということで、各部局これまでの成果を示していただき、今年度からやることについても述べていただきました。まだ、ちょっと熊本市さんとの間で、要は、自治体を跨いでやることについては、まだ詰め切れてないというか具体化がもう少ししたらできるのもありますので、また早めにですね、大西市長並びに、周辺市町の首長さんとのトップ会談等々ですね、これ「渋滞解消」目的じゃなくて、「公共交通」とか「豊肥本線」とかの切り口でもいいので、早いうちにやっぱりトップ会談をやれる機会を作るようにお願いしたいと思いますよろしく申し上げます。

【進行：土木部】

他ございませんでしょうか。

それでは、両副知事からご意見をいただきたいと思います。まず、竹内副知事からお願いします。

【竹内副知事】

知事からもありましたように年度が変わったということで人事異動それから先ほど企画振興部の方から紹介もありましたけど、新たな組織の設置等も行われています。

本日のこの本部会議に至るまでに幹事会それからこの本部会議の準備とですね、それぞれ異動してきた体制の中でも、しっかり部局内の連携が図られたかなというふうには感じています。

一方で民間との連携というのがあってこそ、やはり県民の皆さんの安全安心のための渋滞解消ということが成し遂げられると思いますので、県民、そして、市町村との連携これも引き続きよろしく申し上げます。

そして本日、各部局から報告いただいた、今年度の事業につきましては、着実に進めていただくとともに、何とか効果検証までですね、いけるぐらい、しっかり頑張っていたで、そして情報をしっかり発信していただければと思います。また引き続き一緒に頑張っていきましょう。

【進行：土木部】

ありがとうございました。それでは、亀崎副知事からお願いいたします。

【亀崎副知事】

だいぶ箇所数も増えてきて、短期対策の箇所数、取組み、その他の施策ですね、オフピーク通勤の参加者も増えてきているということで、本当に皆さんの取組みに感謝いたします。

そういった中で、今回のポイントにもありましたように、「効果の見える化」ですね、これを強化すると。やはりこれが大事なのだらうと思います。今回の資料にもありましたが、点としての各効果は出ているのですが、これがなかなかこう、私も思うのですが、実態として、この都市圏でどうなのだろうとよく思うことがあります。

そうしたところ、そういうところが、知事の冒頭のご挨拶にありますように、一部ではその効果が実感できている。ただ、トータルとしては、まだ未完成じゃないだろうかということで、そういったところが、県民の皆さんのお気持ち、感覚としてもあるんじゃないかなと思っておりますので、さらに今の「点」から「線」、そして「エリア」、そういうエリアでどういうふうに効果が発揮できているかということのをこれからまた新たな視点で取り組んでいったらいいんじゃないかと思えます。

そういった中にひとつ、今回のオフピークの室北交差点ですね、実はこれ県警の縦の線で行くと、信号制御も重なっております。そういった複合的な効果も出ているんじゃないかと思っております。そういったことを、これからまた、やっていることをもう少し、創意工夫してやっていきたいと思います。

また、公共交通施策ですね、これ地域公共交通計画、今年3月に策定しました。この中で公共交通2倍という目標が掲げておりますけれども。昨年からの主な取組みとして、今回は運転士不足対策ということがありました。また、今後の取組みとして官民連携で、公共交通への転換を図るということでございます。これは非常にやっぱりこの公共交通2倍っていうのは、掲げる目標としては、いい方向で、これは私もそういうふうにしたいて思っております。そういった中で、これはですね、やはりロードマップが必要だと思っております。これ一緒に考えて、この先どうやって、どういう手を打っていくか、どういう結果を出していくか。一緒になって考えていきたいと思います。

また、交差点改良の取組みでは、これまでになかった新たな取組みということで、県警の皆様には大変お世話になりますが、こういった、これまでになかったこういう（左折の）フリー化とか、そういう風に発想を変えてですね、いろいろ取り組んでいただいて、それが相対的に渋滞解消に緩和に繋がることを目指してやっていきたいと思っておりますので引き続きよろしく申し上げます。

【進行：土木部】

ありがとうございました。最後に木村知事からお願いいたします。

【木村知事】

皆さんありがとうございました。私も知事になって現場を歩いてきた箇所を具体的にどこでどうなっているかっていうのが、見えてくるとですね、非常に効果を実感できると思います。今回であれば、県道大津植木線の辻久保バイパスですね。そして、熊本高森線の4車線化。これもう目に見えてピーク時の渋滞緩和がデータ上も出てきてますし、私も実感しています。

また、短期対策としてですね、まず、昨年度来、県警の皆さんに信号制御をやっていただいて、これがその国道3号、そして白山通りで、かなりこれも目に見えて効果が出ている。もちろん、すべての箇所でなかったってところに県警本部長が謙虚に言われましたけども12カウントの中で、11カウントで効果が出ているということは、もちろんその増えた1箇所は、またご検証いただいて、新年度新たにやるものと含めてですね、今回さらに、ちょっとずつちょっとずついじりながら、ベストな方法を模索していただきたいと思っています。

そういった中で、今、最後、亀崎副知事からお話ありましたように「空港入口交差点」のやはりその左折レーンをこのフリー化する、いわゆる信号規制がなくてもですね、フリーに左折できるようにするというこれも、規制の方法の変更と信号制御の調整っていう非常にチャレンジな試みを県警と連携してできること大変うれしく思っております。

また、バスベイ等の整備も地権者のご意向を得られて、これも目に見えて、やっぱり効果があると思っています。先日ちょっと仕事で、山梨県の甲府に行っていたときなんかは、中途半端なバスベイだと余計、後ろで渋滞（が発生してしまう）、熊本のバスベイは、1車線ちゃんところ中に入り込むバスベイでして、やっぱりそれは渋滞効果、他のところはないもんですから、非常にいい効果ができているんじゃないかと思ってて、また比較的その人家連担ではないといいますか、少し歩道とか、ちょっとバックに余裕があればできますので、ぜひ着実に今後とも地権者のご理解を得ながら進めていっていただきたいと思っています。

そして、先ほど繰り返しますけれども、市町村長とのトップ会談を含めて、さらなる渋滞対策を加速化していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

また、公共交通に向けたオフピーク通勤については、今年度、表彰制度を設けますし、一応、今日の数字には書いてないですが、概ねプラス100企業ぐらいは、それは最初だったので大勢いきましたけど、もうプラス100ぐらい目指して頑張っていきましょう。

そして先ほどの話なりますけれども、効果の見える化、先ほどの県警の信号制御の成果も含めてまたそれぞれの成果をですね、やっぱり見えるように発信をしてください。

今年は新山原水線の、今まさに豊肥本線を超える跨線橋ができて、大きな渋滞緩和がまた新しくセミコンテクノパーク周辺起きるんじゃないかと期待できる大きな事業の完成が目の前に迫っていますので、それと合わせた、周辺道路を含めた、県民の皆さんが実感できる対策を今年度またしていけたらと思っています。

今後ともですね、私たち県庁、県警、そして国、市町村、交通事業者巻き込んでですね、もちろん企業の皆様とも連携して、県民の皆さんに、より実感いただけるような、渋滞対策、スピード上げて取り組んでいきましょう。以上でございます。

5 閉会

【進行：土木部】

はい。ありがとうございました。今後も関係部局と連携して、熊本都市圏の渋滞解消に向けて取り組んで参りますので、ご協力をよろしくお願いいたします。以上をもちまして、令和8年度第1回熊本県渋滞解消推進本部会議を終了いたします。本日はお忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございました。